

# 2026 → 2033

## 未来へ向かうまちづくりの方向性

こうなったらいいな！西会津 町の将来像

### 未来を編む。幸せひろがる日本の田舎、西会津町。

#### 共育の架け橋、明日へのまちづくり



地域が一体となった子育て支援体制の充実により、まち全体での協育環境づくりに努めます。健康な体や豊かな心、確かな学力を育み、未来を拓く子ども達の教育を大事にします。主体的な生涯学習活動を支援し、町民一人ひとりの学びが共育につながる環境整備に努めます。誰もがいつでも、身近にスポーツに親しめる環境を整備し、地域住民同士がつながりあうことを大切にします。地域の歴史を大切に継承しながら、新たな町の文化の創造を目指します。様々な教育が架け橋となって未来のひと・まちづくりを目指します。

#### 地域資源を誇り・繋ぎ・育てるまちづくり



西会津町には、先人たちが築き上げてきた農業・林業・伝統工芸・観光など、かけがえのない地域産業があります。私たちはこれらを単なる「仕事」としてではなく、地域の誇りとして受け止め、その価値を知り、伝え、次の世代に繋いでいくことを使命としています。環境の変化や人口減少の時代にあっても、地域の知恵と技術、そして人の想いを大切にしながら、地域産業を守り育てる持続可能なまちづくりを、住民一人ひとりの手で進めていきます。

#### 健康で生涯いきいきと暮らせる多様性のまちづくり



町民みんなが心身ともに健康で、生きがいを持ちながら安心して生活できる環境づくりを進めます。世代や地域を超えた交流を促進し、互いに尊重し助け合える、つながりがある町を目指します。

#### 暮らしを守り、明日を彩るまちづくり



人口減少や気候変動、高齢化の進行といった社会的課題に直面しながらも、町民が日々の暮らしに安心と誇りを持つまちづくりを追求します。特に、雪と共に生きる地域の特性を踏まえた雪対策、老朽化が進む生活・公共インフラの計画的な更新、進展するデジタル社会への対応、災害に強いまちづくり、そして豊かな自然環境の保全は、町の持続可能な未来を築くために不可欠な取り組みです。こうした取り組みを進めることによって、明日をより良く(明るく)彩っていきます。

人と人、自然と暮らし、過去と未来を丁寧につなぎ合わせ、

自然の美しさや穏やかな空気感、

そこに住む人々の温かさを感じ続けてもらえる町を目指します。

日常の忙しさから少し離れ、心を満たす時間を過ごせる場所、それが西会津。

誰もが急ぎすぎることなく、生きることそのものの幸せを感じられ、

どこか懐かしさや安心感を抱ける「日本の田舎」を目指します。

#### 町長あいさつ

西会津町は福島県の北西部に位置し、古くから会津の西の玄関口と呼ばれ、越後街道の宿場町として栄えてきました。町の中央を阿賀川が流れ、万年雪を頂く飯豊連峰を望めるなど、四季折々の豊かな自然環境に恵まれています。また、大山祇神社や鳥追観音如法寺、縄文遺跡などの歴史資源が残り、「会津の霊地」としての信仰と歴史を今に伝えています。

このような特色を持つ本町では、令和7年度に西会津町総合計画(第5次)を策定し、町の将来像「未来を編む。幸せひろがる日本の田舎、西会津町。」の実現に向け、町民・議会・行政が一体となった協働によるまちづくりを積極的に推進し、各種施策を展開しています。

人口減少、少子高齢化に加え、近年では自然災害の激

甚化や物価高騰、デジタル技術の進展など本町を取り巻く社会情勢が急速に変化し続けていく中でも、人と人とのつながりを大切にしながら、町民一人ひとりが笑顔で安全・安心に幸せを実感しつづけられる町を目指し、西会津町ならではの挑戦を続けていきます。

本要覧は、人と人、自然と暮らし、過去と未来を丁寧につなぎ合わせていくこの町の特色をまとめたものです。皆様に西会津町をより深くご理解いただくとともに、今後の町政伸展にお力添えいただければ幸いです。



西会津町長 薄 友喜



町の計画はこちらから

令和8年度からスタートした新しいまちづくりの指針西会津町総合計画(第5次)。これは、西会津町のまちづくりの最上位計画に位置づけられます。町が目指す8年後の将来像を掲げ、長期的なまちづくりの方向性を明らかにし、この総合計画に基づいてまちづくりを行っていきます。